

システム・ダイナミクス学会日本支部  
2011年度 第1回会員総会

審議期日：2011年 7月5日（火）～

2011年 7月12日（火）

議長

JSD会長 内野 明

議題

|     |                            |       |
|-----|----------------------------|-------|
| 報告1 | 2011年度第1回電子理事会報告           | p. 4  |
| 報告2 | 2010年度 2010年度理事選任の総会に関する報告 | p. 5  |
| 議案1 | 2010年度事業報告                 | p. 6  |
| 議案2 | 2010年度決算報告                 | p. 9  |
| 議案3 | 2011年度事業計画                 | p. 10 |
| 議案4 | 2011年度予算案                  | p. 12 |
|     | その他ご意見                     |       |

審議方法

上記の電子総会開催期日以内に議案1～議案4に関しまして、賛否並びにご意見を議長（JSD会長 内野明, office@j-s-d.jp）宛てにお送りください。審議の結果並びに皆様からのご意見は、学会HP及びMLにて報告させていただきます。  
ご回答は、次頁のフォーマットをメール本文にコピーの上、ご回答ください。

審議期日終了日までにご回答ない場合は、議長に議決権の行使をご一任頂いたとさせていただきます。ご了承頂ければ幸いです。

下記の返信票をメール本文にコピーの上、[office@j-s-d.jp](mailto:office@j-s-d.jp)までご返信  
ください。審議期日終了日までにご回答ない場合は、議長に議  
決権の行使をご一任頂いたとさせていただきます。

議長 内野 明 殿

システム・ダイナミクス学会日本支部  
2011年度 第1回会員総会 返信票

第1回会員総会の次の議案に対して、(会 員 氏 名) は下記の通り回答します。

<報告事項>

報告1 2010年度第1回(電子)理事会報告

ご意見:

報告2 2010年度2010年度理事選任の総会に関する報告

ご意見:

<審議事項> 賛成/反対のどちらかを消してください。

議案1 2010年度事業報告 賛成 / 反対

ご意見:

議案2 2010年度決算報告・監査報告 賛成 / 反対

ご意見:

議案3 2011年度事業計画 賛成 / 反対

ご意見:

議案4 2011年度予算案 賛成 / 反対

ご意見:

その他ご意見:

## 【総会成立条件】

2011年度 JSD電子総会有効回答数

- (1) 有効回答 (\_\_\_\_名)
- (2) 議長への委任者数 (\_\_\_\_名)
- (3) 結論  
有効回答を出席者とみなした場合の出席者 (\_\_\_\_人)  
2011年年度年初の会員の議決権者が (\_\_\_\_人)  
定足数(議決権者の1/3)が (\_\_\_\_人)

出席者と委任状送付者の合計が定足数を越えていることから総会は成立する。

## 【会員状況】

2009年度末会員数 102人 (2009年6月30日現在)

2010年度末会員数 137人 (2010年3月31日現在)

2011年度当初会員数 130人 (2011年6月15日現在)

## 【2011年度本部役員】

### 1. 1 運営組織

会長 : 内野明  
副会長 (会長補佐、研究) : 田中伸英  
総務担当理事 (Executive Director) : 福田敦  
国際担当理事 (International Society Liaison) : 山口 薫  
理事 (学会誌編集) : 小山茂 (編集委員長)、有村幹治、海老根敦子  
理事 (研究) : 高橋 裕、武田晋一、鈴木宏典、岩尾詠一郎  
理事・事務局担当幹事 :  
小早川 悟 (会計)、石坂哲宏 (HPの運営・管理)、伊東英幸 (会員管理)  
監事 : 町田欣弥、渡部淳一

### 1. 2 顧問

坂倉省吾先生  
小林秀徳先生

### 1. 3 担当幹事

事業推進において担当理事を補佐する幹事を、各担当責任者の要請に基づき、会長が継続して委嘱した。

(1) JSD研究会 (全国区)  
福島史郎

(2) JSD学会誌編集委員会、岡村誠、池下英典、伊藤雄太、仲澤政利

## 報告 1

### 1. 2011 年度 JSD 総会提出資料に関する理事会報告

#### 理事会

- (1) 期間 6月22日～29日
- (2) 形態 理事会 ML による電子理事会
- (3) 出席者： 理事会メンバー全員  
内野 明、田中伸英、福田 敦、山口 薫、小山 茂、有村幹治、海老根敦子、  
高橋 裕、武田晋一、鈴木宏典、小早川 悟、伊東英幸、石坂哲宏、岩尾詠  
一郎、町田欣弥、渡部淳一
- (4) 議事  
議案1 2010 年度事業報告  
議案2 2010 年度決算報告  
議案3 2011 年度事業計画  
議案4 2011 年度予算案
- (5) 結果  
過半数以上の賛成があり提出案が承認された。

## 報告 2

### 2010 年度理事選任の総会に関する報告

2010 年 4 月 24 日に学習院大学で開催された 2010 年度第 1 回会員総会において、3 月に行われた会長信任投票の結果を受けて森田道也前会長から新会長として内野明へ引き継ぐことが報告されました。本来であればこの時点で新理事候補を指名しご承認を頂くところでしたが、会長引き継ぎの時間がなかったため、理事（総務担当）として松本憲弘氏に代わって福田 敦氏のみを指名させて頂き、他の理事に関しましては、後日メーリングリストによる総会に掛けさせて頂くことでご承認を頂きました。そこで、下記の通りメーリングリストによる総会を実施しました。

議 案：JSD 役員選出

審議期間：平成 22 年 10 月 6 日～10 月 15 日

回 答：賛成 127 件（無回答 93 件を含む）、反対 0 件

審議結果：JSD 役員は議案の通り選出された。

|              |       |                 |
|--------------|-------|-----------------|
| 会 長          | 内野 明  | 専修大学商学部         |
| 副会長          | 田中伸英  | 学習院大学経済学部       |
| 理事（総務担当）     | 福田 敦  | 日本大学理工学部社会交通工学科 |
| 理事（国際担当）     | 山口 薫  | 同志社大学大学院ビジネス研究科 |
| 理事 編 集 編集委員長 | 小山 茂  | 札幌大学女子短期大学部     |
| 理事 編 集 編集委員  | 有村幹治  | 室蘭工業大学くらし環境系領域  |
| 理事 編 集 編集委員  | 海老根敦子 | 駿河台大学経済学部       |
| 理事 研 究       | 高橋 裕  | 専修大学商学部         |
| 理事 研 究       | 武田晋一  | 拓殖大学国際学部        |
| 理事 研 究       | 鈴木宏典  | 日本工業大学          |
| 理事 研 究       | 岩尾詠一郎 | 専修大学商学部         |
| 理事 事務局 会計    | 小早川 悟 | 日本大学理工学部        |
| 理事 事務局 会員管理  | 伊東英幸  | 名古屋大学エコトピア科学研究所 |
| 理事 事務局 HP    | 石坂哲宏  | 日本大学理工学部社会交通工学科 |
| 監事           | 町田欣弥  | 駿河台大学経済学部       |
| 監事           | 渡部淳一  | 法務省             |

## 議案 1

### 1. 2010年度事業報告（2010年4月1日～2011年3月31日）

森田先生から内野先生への会長の交代及び事務局の引き継ぎ完了後、本年度の事業に関しては、2010年7月30日配信の内野会長の基本方針を基に事業を進めてきました。基本方針に関しては、資料最後に添付しました。

#### 1. 1 JSD研究会

- (1) 全国区 : 1回を予定し、2011年3月に京都で、同志社大学ビジネススクールのSDグループと共催で開催した。  
担当 山口薫（理事） 福島史郎（幹事）

|         |                           |
|---------|---------------------------|
| 研究会名称   | JSD研究会(京都)                |
| 期日・時刻   | 2011年3月12日<br>13:00～17:00 |
| 場所      | 同志社ビジネススクール<br>寒梅館(京都)    |
| 出席者数    | 16名                       |
| 担当役員・幹事 | 山口薫・福島史郎                  |

| 番号 | 講演者  | 所属                             | 講演題名                          |
|----|------|--------------------------------|-------------------------------|
| 1  | 佐藤安弘 | 同志社大学大学院<br>TIM専攻              | 日本の電機産業のシステム構造分析              |
| 2  | 樽本祐介 | 九州沖縄農業研究センター                   | さとうきび生産と製糖工場の連携にむけたモデル作成の取り組み |
| 3  | 福島史郎 | 同志社ビジネススクール<br>システムイノベーショングループ | Green Business Indexesの開発     |

#### 1. 2 編集委員会活動報告 : 編集委員長 小山茂（理事）

##### (1) 編集委員会の設置

編集委員会を昨年度に引き続き設置した。編集委員長、編集委員、編集委員会担当幹事は以下の通り。

- 1) 編集委員長  
小山茂
- 2) 編集委員  
有村幹治（理事）、海老根敦子（理事）
- 3) 編集委員会担当幹事  
岡村誠、伊藤雄太、仲澤政利、中村友哉

##### (2) 学会誌9号

研究論文として7編、研究ノート2編を採択し、学会誌9号を平成22年8月17日に発行した。

##### (3) 学会誌10号

- 1) 学会誌の審査手順に則り学会誌研究論文を公募し、6編のアブストラクトの投稿が

あり採択した。最終的には研究論文として 4 編及び研究ノートとして 1 編の投稿があり、現在審査を行っている。

- 2) カンファレンスで発表した論文の中から学会誌研究論文への投稿希望を認めていたが、本年度はカンファレンスを秋に延期としたため該当論文はないものとする。
- 3) 学会誌の印刷業者を選定し、8月上旬に発行予定である。

### 1. 3 研究分科会の活動促進

下記の研究分科会が 1 つ開設し、次の報告のとおり活動を行った。

「モデリング支援研究分科会」（主査:内野 明 幹事:高橋 裕）

#### (1) モデリング支援研究分科会

SD モデリングに習熟した会員を増やすため、参加者のモデルを持ち寄り、あるいは話題の提起をして、どのようにモデルを作ればよいか議論・相談をする研究部会を開いた。

メンバーは主査 内野 明 (JSD 会長)、幹事 高橋 裕 (理事) のほかは固定せず、各会員が参加を希望する回に自由に参加する形式とした。各回 10 名前後の参加者があった。開催履歴は以下の通り。

- 第 1 回 10 月 15 日 専修大学神田校舎
- 第 2 回 11 月 5 日 日本大学駿河台校舎
- 第 3 回 12 月 3 日 専修大学神田校舎
- 第 4 回 1 月 12 日 日本大学駿河台校舎
- 第 5 回 2 月 18 日 学習院大学

### 1. 4 カンファレンスの開催 担当：全役員

#### (1) JSD カンファレンス 2011 (震災の発生を受け延期)

名称 : JSD CONFERENCE 2011

期日 : 2011 年 4 月 23 日 (土) 10 時～17 時 00 分

場所 : 専修大学神田校舎

担当 : カンファレンス運営委員会 (JSD 事務局)

経緯 : 2010 年 1 月 29 日に ML 上で開催告知 (通常は 12 月) を行い、アブストラクト募集期間を 2011 年 1 月 27 日～2011 年 2 月 21 日として準備を進めてきたが、東日本大震災の発生を受けて、次の事情を鑑みて延期とした。会場としていた専修大学では、3 月 11 日の震災により、日本武道館での入学式を中止し、学部ごとの入学式とし、授業開始を実質で 2 週間遅らせるなど、会場予定の教室も、この影響を受けてしまったこと、また、発表申込みもほとんどない状態のため、体制を整える必要があるためです。

延期に伴う措置 : 2011 年秋に延期

### 1. 5 System Dynamics Society などでの国際交流の促進

### 1. 6 会員管理・ML 運営 担当：伊東理事

会員管理として、新会員の登録、退会者の削除、住所やメールアドレスの更新などの名簿管理と、メーリングリスト (以下 ML) の追加・削除などの更新管理を行った。

会員名簿のファイルは、個人情報保護の観点からパスワードをかけて厳重に管理し、事務局内で共有しているが、一般会員には公開していない。

新規入会に関しては、理事会への入会承認の問い合わせを行い、1 週間後に異論がなければ承認とし、入会者のメールアドレスをメーリングリストに登録するとともに JSD の概要説明をメールで連絡した。また、新規入会者には当該年度の JSD 学会誌を郵送した。これに加え、例年と同様に年度末 (1～3 月の間) に入会した場合は、次年度の年会費は請求しない旨を新規入会者に連絡した。

年会費の支払いに関しては、会員から連絡があった場合には適宜、請求書等を郵送した。また、年会費の入金確認に関しては、事務局と連携し、通帳の記載欄を基に入金の

有無について確認を行っている。

#### 1. 7 HP 管理 担当：石坂哲宏理事

これまで国立情報学研究所学協会情報配信サービスを利用して無料にて、学会ホームページを公開してきたが、サービスの利用停止に伴い、学会独自でドメインを取得し、レンタルサーバー上で学会 HP を運用することとなった。

2010年11月13日にML上でサーバー移行の告知を行い、同日より新サーバーでホームページの運用を行っている。

新ドメイン：<http://www.j-s-d.jp/>

公開以降、研究会、モデリング支援研究会等の開催案内、英語ホームページの整理・修正を行い、会員への広報媒体としての充実を図った。



議案 2

2. 2010 年度収支決算報告・監査報告

2010年度収支決算書  
(2010年4月1日～2011年3月31日)

|          | 2010年度予算額 | 2010年度決算額 |
|----------|-----------|-----------|
| 収入の部     |           |           |
| 前期繰越金    | 2,609,551 | 2,609,551 |
| 個人会費     | 500,000   | 404,000   |
| 賛助会費     | 50,000    | 50,000    |
| 出版物売上    | 100,000   | 21,500    |
| 雑収入      | 0         | 949       |
| 当期収入合計   | 650,000   | 476,449   |
| 収入の部合計   | 3,259,551 | 3,086,000 |
| 支出の部     |           |           |
| 通信費      | 100,000   | 39,550    |
| 印刷費      | 100,000   | 78,750    |
| 事務用品費    | 10,000    | 14,474    |
| 講師謝金     | 50,000    | 10,000    |
| 交通費      | 5,000     | 2,690     |
| 雑費       | 30,000    | 12,890    |
| 会議費      | 10,000    | 6,536     |
| 研究分科会補助費 | 50,000    | 41,546    |
| アルバイト謝金  | 20,000    | 0         |
| 学会誌印刷費   | 400,000   | 198,660   |
| 前年度未処理分  | 0         | 0         |
| 事務所賃貸料   | 24,000    | 0         |
| 当期支払合計   | 799,000   | 405,096   |
| 次期繰繰り越し  | 2,460,551 | 2,680,904 |
| (現金残高)   |           | 0         |
| (預金残高)   |           | 2,680,904 |
| (未払い金)   |           | 0         |
| 支出の部合計   | 3,259,551 | 3,086,000 |

2011年3月31日 理事(会計担当) 小早川 悟

2011年3月31日 理事(総務担当・事務局長) 福田 敦

上記の会計について監査の結果、適正であることを認めます。

2011年6月14日 監事

町田 欣弥

2011年6月14日 監事

渡部 淳一

## 議案 3

### 3. 2011 年度事業計画

(2011 年 4 月 1 日～2012 年 3 月 31 日)

#### 3. 1 JSD 研究会

##### (1) JSD 研究会(全国区)

- 1) 担当：山口薫（理事）、福島史郎（幹事）
- 2) 主催：同志社大学ビジネススクール（DBS）SD グループと JSD とで共催する。
- 4) 開催場所：京都・同志社大学ビジネススクール
- 5) 開催時期：2011 年 3 月（予定）

#### 3. 2 JSD 学会誌発行

- (1) 担当：編集委員長 小山茂（理事）、  
編集委員 有村幹治（理事）、海老根敦子（理事）  
編集担当幹事 伊藤雄太、仲澤政利、中村友哉

##### (2) 事業概要

発行回数：1 回／年  
発行時期：2011 年 6 月  
内容：査読論文、研究ノート、活動報告、その他  
ページ数：100 ページ  
発行数：250 冊  
販売価格：1,500 円／冊

##### (3) スケジュール

|             |               |
|-------------|---------------|
| 告示          | : 2011 年 9 月  |
| アブストラクト募集開始 | : 2011 年 11 月 |
| 採用決定通知      | : 2011 年 12 月 |
| 論文締切り       | : 2012 年 1 月  |
| 査読          | : 2012 年 2 月  |
| 掲載決定通知      | : 2012 年 3 月  |
| 発行          | : 2012 年 6 月  |

- (4) 査読委員：小山茂編集委員長が査読委員を選任して、学会誌において人名を公表する。

#### 3. 3 研究分科会の活動促進

- (1) 担当：全役員

##### (2) 目標と活動方針

3 つ以上の研究分科会が活動を開始することを目指す。研究分科会の活動に参加する非会員が SD に関する実用的な価値を理解して、JSD に入会するきっかけとなることを期待する。そのために、初年度に限り JSD 会員以外も研究分科会のメンバーとして登録できることとする。JSD 会員以外の登録については、研究分科会の主査の管理下において実施する。

#### 3. 4 JSD カンファレンス開催

震災のため延期した JSD カンファレンス 2011 を今秋を目途に開催する。

- (1) 担当：事務局を中心にカンファレンス運営委員会を組織して実施する。
- (2) 開催場所：未定

(3) 開催時期：2011年11月12日(土) 専修大学神田校舎 731 教室

(4) スケジュール(予定) 詳細は後日 ML 等で告知します。

アブストラクトの募集：2011年7月～2011年8月(予定)

送付宛先 : conference@j-s-d.jp

カンファレンス 2011 運営委員会

内容 : アブストラクトの字数は、300～400 字。

項目は、①題名、②発表者、③論文の目的と概要

なお、背景を冗長に記述しないようご注意ください。

採否の発表：2011年9月上旬

(5) 論文締め切り：10 月末

論文の容量は、6～16 ページ。論文フォームは学会 HP に近日中に掲載します。

最終論文の採否の発表：11 月上旬

### 3. 5 研究活動の奨励

学会員の研究活動をサポートするために研究奨励金を設ける。研究奨励金(5 万円)は JSD 学会誌に論文が掲載され、System Dynamics Society へ論文掲載が認められた研究を対象に授与することとする。

### 3. 6 国際的な研究活動に向けた検討・準備

System Dynamics Society との連携を深めるために、国際的な研究活動を実施に向けた検討を開始することとする。また、それに向けた準備を行うこととする。

### 3. 7 総会の開催

(1) 担当 : 事務局長(総務担当理事)、事務局担当理事

(2) 2012 年度総会開催期日 :

2012 年 4 月に JSD カンファレンス 2012 に合わせて開催する。

議案 4

4. 2011 年度予算案

|            | 2010 年度   | 2011 年度   |
|------------|-----------|-----------|
| 収入の部       |           |           |
| 前期繰越金      | 2,609,551 | 2,680,904 |
| 個人会費       | 500,000   | 450,000   |
| 賛助会費       | 50,000    | 50,000    |
| 出版物売上      | 100,000   | 50,000    |
| 雑収入        | 0         | 0         |
| 当期収入合計     | 650,000   | 550,000   |
| 収入の部合計     | 3,259,551 | 3,230,904 |
| 支出の部       |           |           |
| 通信費        | 100,000   | 100,000   |
| 印刷費        | 100,000   | 100,000   |
| 事務用品費      | 10,000    | 15,000    |
| 講師謝金       | 50,000    | 50,000    |
| 交通費        | 5,000     | 5,000     |
| 雑費         | 30,000    | 30,000    |
| 会議費        | 10,000    | 20,000    |
| 研究会・分科会補助費 | 50,000    | 150,000   |
| 研究活動奨励     |           | 100,000   |
| アルバイト謝金    | 20,000    | 100,000   |
| 学会誌印刷費     | 400,000   | 250,000   |
| 前年度未処理分    | 0         | 0         |
| 事務所賃貸料     | 24,000    | 0         |
| 当期支払合計     | 799,000   | 920,000   |
| 次期繰り越し     | 2,460,551 | 2,310,904 |
| 国際研究活動準備引当 |           | 1,000,000 |
| 残高         |           | 1,310,904 |
| 支出の部合計     | 3,259,551 | 3,230,904 |

## 【参考】

### システム・ダイナミクス学会日本支部 規約

#### 第1条 (名称)

本会はシステム・ダイナミクス学会日本支部と称する。

#### 第2条 (目的および事業)

本会はシステム・ダイナミクス学会日本支部英文規約 (Constitution of the Japanese Chapter of the System Dynamics Society, 以下規約という) 第2条に掲げる目的を達成するために次の事業を行う。

なお、事業活動に必要な規則等は別に定める。

- (1) システム・ダイナミクスに関する研究会の開催
- (2) システム・ダイナミクスに関する図書、報告書、資料等の発行
- (3) システム・ダイナミクスに関する調査研究
- (4) システム・ダイナミクスに関係ある内外の学会、その他団体との連絡協議
- (5) その他規約に掲げる目的の達成に必要な事業

#### 第3条 (会員構成)

- 1 本会は一般会員、学生会員、賛助会員および会友をもって構成する。
- 2 一般会員および学生会員は、本会の主旨に賛同し、第4条に定める手続きにより入会したものをいう。
- 3 賛助会員は本会の主旨に賛同する団体で、第4条に定める手続きにより入会したものをいう。  
なお、賛助会員は1口につき最大5名が一般会員として登録できる。
- 4 会友は国際交流の促進を図る目的で、本会の会長がシステム・ダイナミクス学会 (The System Dynamics Society) の会員の中から入会を招請したものを言う。

#### 第4条 (入会)

- 1 入会を希望するものは、所定の入会申込書によって本会の会長に申し出なければならない。
- 2 入会は理事会において承認し決定する。

#### 第5条 (会費)

本会の会費は一般会員については年5,000円、学生会員については年2,000円、賛助会員については1口年50,000円とする。

#### 第6条 (退会)

- 1 一般会員、学生会員および賛助会員は本会の会長に届け出て退会することができる。
- 2 会費の滞納が1ヶ年以上におよぶときは原則としてその資格を失う。

#### 第7条 (役員)

本会に次の役員を置く。

|  |       |
|--|-------|
| 会長 (President)                           | 1名    |
| 副会長 (Vice-President)                     | 3名以内  |
| 理事 (国際担当: International Society Liaison) | 1名    |
| 理事 (総務担当: Executive Director)            | 1名    |
| 理事                                       | 10名以内 |
| 監事                                       | 2名    |

#### 第8条 (役員を選任)

- 1 会長は総会に先立つ一般会員、学生会員および賛助会員による選挙によって選出する。  
選挙細則は別途定める。
- 2 副会長、理事、監事は総会において一般会員および賛助会員の中から会友を除く出席者の過半数の賛成を得て選出する。

#### 第9条 (理事会)

- 1 理事会は役員をもって構成し、毎年の総会時および会長がその必要を認めたとき、または役員の過半数以上の要請があるときに開催する。
- 2 理事会は、本会の活動を統括する。
- 3 理事会は、必要に応じて本会の活動にかかわる事項を審議し、実行するための各種委員会・分科会を設置することができる。
- 4 会長が必要と認めたときは、幹事を置くことができる。
- 5 委員および幹事は、会長が委嘱する。
- 6 委員、幹事の任期は2年とし重任を妨げない。

#### 第10条 (役員任期)

役員任期は2年とする。

#### 第11条 (顧問)

会長は、理事会の議を経て、顧問を委嘱することができる。

#### 第12条 (総会)

総会は年1回以上開催し、役員選任、事業計画、予算、決算、規約の変更、その他重要事項を承認する。

#### 第13条 (定足数)

総会の定足数は会員の3分の1以上、理事会の定足数は役員の2分の1以上とする。

#### 第14条 (会計年度)

会計年度は毎年4月1日より、翌年3月31日にいたる期間とする。

#### 第15条 (事務局)

- 1 本会の事務局を下記に置く。  
〒274-8501 千葉県船橋市習志野台7-24-1  
日本大学理工学部社会交通工学科交通システム研究室内  
システム・ダイナミクス日本支部事務局  
TEL: 047-469-5355
- 2 事務局は理事 (総務担当) と幹事で構成し、理事 (総務担当) が事務局長を務める。

- 付 則 1 第 10 条の規定にかかわらず、支部発足時の役員の任期は 1991 年 12 月 31 日までとする。  
 2 本内規は 1990 年 9 月 22 日より発効する。  
 3 1991 年 7 月 22 日一部改正 4 1992 年 2 月 17 日一部改正 5 1995 年 3 月 13 日一部改正  
 6 1996 年 3 月 29 日一部改正 7 2003 年 2 月 12 日一部改正 8 2004 年 1 月 31 日一部改正  
 9 2005 年 4 月 2 日一部改正  
 10 第 14 条の規定にかかわらず、2005 年度会計年度は、2005 年 1 月 1 日から 2006 年 3 月 31 日までとする。  
 11 2010 年 4 月 24 日一部改正：第 15 条（事務局）の改訂

## システム・ダイナミックス学会日本支部 会長選出に関する細則

- 第 1 条 この細則は「システム・ダイナミックス学会日本支部規約」第 8 条に 定めた会長の選出に関する手続きを定めるものである。
- 第 2 条 会長の選出は次の各項による。
- 1 会長は一般会員と賛助会員に対して、文書またはそれに準じる方法によって次期会長候補の推薦を期末 45 日以前に、14 日間の期間を設定して求める。
  - 2 5 名以上の会員が推薦し、被推薦者が候補者となることを了承することにより、代表推薦人は会長に文書またはそれに準じる方法で、以下の内容を届出る。  
 推薦人：氏名、住所、所属、e-mail、電話、(代表推薦人マーク)  
 被推薦人：氏名、住所、所属、職位/資格、e-mail、電話、専門、略歴、  
 JSD 会長としての目標・抱負 (400 字以内)
  - 3 会長は規定の期間内に届出があった候補者に確認した上で、会長選挙を郵便により期末の 14 日以前に 7 日間の期間を設定して実施する。
  - 4 会長は会長選挙の結果を理事会で開封して集計し、第 1 位の候補に当選認定書を交付し、新役員候補の選定を促す。
  - 5 新年度の総会において会長は、新会長に権限を委譲する。

## 研究分科会の設立と運営に関する内規

1. 研究分科会が発足するまでのプロセス
  - ① 提案者：研究分科会の設立提案をサロン・メールで発信
  - ② 全会員：サロン・メールによる意見交換とメンバー募集
  - ③ 提案者：研究分科会の設立提案書を事務局までメールで送付
  - ④ 会長による承認
  - ⑤ 研究分科会活動開始
2. 諸規定
  - (1) 設立条件  
5 名以上の会員をメンバーとして、代表者が提案し、その目的が JSD の活動主旨に沿い、JSD の研究・普及活動を活性化させる可能性が認められるとき、会長は研究分科会の設立を承認する。
  - (2) 参加資格  
研究分科会の活動に貢献する JSD 会員は、いかなる研究分科会にも参加できる。
  - (3) 研究分科会の組織と運営  
分科会には主査と幹事をおき、事務局が設定した分科会専用の ML の管理も自主的に行う。
  - (4) 研究分科会の権利と義務
    - ① 分科会メンバーの変更があった場合には、速やかに事務局に届け出る。
    - ② 研究報告を研究会で発表するよう担当理事に求められた場合には指示に従う。
    - ③ 少なくとも年 1 回以上は JSD 研究会等で発表する。
    - ④ 会議場、コピー代など研究分科会開催に必要な経費は、領収書とともに事務局に申請すれば支払を受けることができる。ただし、各研究分科会の上限は別に定める。
3. 研究分科会の設立申請様式  
メンバーリストを入力した Excel ファイルと下記の申請内容を事務局メール宛に送付して申請する。  
 事務局：jsd-office@yahooogroups.jp

### 分科会設立申請書

下記の内容の研究分科会の設立を申請します。

申請日：  
 申請者：  
 名称：研究内容が推測できる研究分科会の名前  
 共同申請者：添付する Excel ファイルに 5 名以上の JSD 会員名を記載  
 趣旨：研究分科会を立ち上げる背景と狙い、参加メンバー利得、期待できる成果、等について具体的に記載  
 研究内容：研究対象、研究構成、研究内容、研究計画、等について具体的に記載  
 研究体制：研究組織、研究実施方法、打ち合わせ頻度・形式、作業分担方法、等についてできるだけ具体的に記載

メンバーリストのExcelファイルには、代表世話人を含めて下記情報を記載。  
名前、e-mailアドレス、所属機関名

## 編集委員会細則

- 第1条 (目的)  
当日本支部規約第2条に定める事業を行うために、編集委員会を設ける。  
編集委員会は、当日本支部で発行する学会誌の発行に関する諸事項の決定およびそれらの処理事項を実施する。
- 第2条 (委員会の構成)  
編集委員会の構成は次の通りとする。  
編集委員長 1名  
編集副委員長 1名  
編集委員 若干名
- 2 編集委員長と編集副委員長は当日本支部の会長が理事会メンバーの中から任命する。
- 3 編集委員は編集委員長が当日本支部の会員の中から委嘱する。
- 第3条 (委員の任期)  
編集委員長、副委員長、委員の任期は2年間とする。
- 第4条 (委員会の業務)  
委員長は編集委員会を招集し、次の事項を審議し処理する。  
①学会誌の投稿規定の策定と論文募集  
②学会誌研究論文の査読適格者の委嘱と投稿論文ごとの選任  
③学会誌の編集に関わる業務  
④学会誌の発行・送付に関わる業務
- 第5条 (委員会の報告)  
委員長は編集委員会の審議内容、業務遂行内容を理事会に適宜報告する。
- 付則 2005年12月24日から発行する。

## 学会誌研究論文査読規定

1. 審査の目的  
投稿された研究論文が当日本支部の学会誌に掲載するにふさわしいか否かを審査基準に基づき判断する。
  2. 審査基準  
投稿された研究論文は、以下の項目に照らして査読者が総合的に審査する。  
分野 : システム・ダイナミクスに関連した内容であること。  
論理性 : 論旨の展開が明快で、記述が簡潔・明瞭であること。  
新規性 : 内容に新たな知見が盛り込まれていること。  
信頼性 : 結論等を信頼するに値する客観的な考察が示されていること。  
有用性 : 得られた結論・経過が学術領域あるいは実社会において有用であること。
  3. 査読者  
編集委員会が指名する2名の査読者が審査基準に基づき審査にあたる。査読期間は編集委員会から送付されて2ヶ月以内とする。査読適格者の氏名は公開するが、個々の投稿論文も対する査読者の氏名は公開しない。査読者と投稿者との直接の接触は許容されず、必ず編集委員会を介する。
  4. 判定  
査読者の審査結果に基づき研究論文は以下のいずれかに判定される。査読者の意見が割れた場合には編集委員長がこれを決する。  
①そのまま掲載  
②指摘事項を修正したことを編集委員長が確認して掲載  
③再度査読者の審査が必要  
④掲載不可
- ②と判定された研究論文の投稿者には掲載条件が指示される。投稿者が指示に従い修正したことを編集委員長が確認すれば掲載に分類される。投稿者に異論がある場合には、論拠を編集委員長に文書でもって提出し、編集委員会が審議の結果、提出文書が適切であると判断されたなら掲載に分類される。修正が十分でなく、また異論根拠が文書で提出されない場合には④掲載不可に分類される。
- ③と判定された研究論文は、修正後に査読者により出版までの時間が許容する範囲内で審査する。時間切れの場合には、④掲載不可に分類される。

## 参考資料

2010年7月30日配信 JSD 会長就任にあたってのご挨拶と基本方針 会長 内野明

以下原文のまま。

JSD 会員の皆様へ

4月24日の総会で交代した新しい会長の内野 明です。

ご挨拶が遅れて本当に大変申し訳ありません。

森田道也先生が6年間会長をされ、松本憲洋さんが8年間に事務局をされていた JSD を引き継ぐ形になりました。私がぐずぐず引継資料を保管していたために、引継完了が7月に入ってしまいました。事務局は日本大学の福田 敦先生にお願いいたします。新しい年度が早くも3カ月過ぎようとしております。所信表明をかねてご挨拶させていただきます。

ボランティア精神を発揮しながら、事務局と JSD 全体を維持してきた松本さんに代わって、私も福田先生も JSD に対して松本さんと同様な働きをすることはできません。ですから、JSD という組織が会員にとって必要な組織で、会員がそれなりの貢献を組織に対して果たして良いと思う組織にしていけないと、今後長く組織を維持することは不可能だと思っています。7月末で大学も、ようやく夏休みに入ろうかという段階となりましたので、新規の理事体制もここ1月以内に確定させ、発表したいと思います。

[JSD という組織の性格]

JSD は、国際組織である System Dynamics Society (以下、SDS) の日本支部を基本構造とします。

SDS の会員は JSD とは必ずしも関係なく、個人の資格で SDS に対して年会費を払っています。

変動がありますが10名程度が SDS 会員として会費を払っているはずですが、JSD は、日本に SD を普及させる目的と、英語の壁が存在するために、直接国際学会に加盟してもメリットがない方のために、国際学会に加入しているメンバを中心に設立されたものです。SDS の方は、当初は分派的な活動を必ずしも快く思っていなかったようです。英語中心の世界しか想定しにくい人たちにとっては、本体に参加しない会員の存在はあり得ないのかもしれませんが、しかし、現在、中国、韓国、そしてスペイン語圏では、言葉の壁の存在もあり、少なくとも中国と韓国では独立の学会が存在しています。日本の JSD も事実上同じで、日本 SD 学会とは名乗っておりませんが事実上同じ性格を持っていると思います。

[基本方針]

前述のように、「維持できる組織」にすることが先決ですので、「既存の会員のメリット」をまず優先させたいと思います。

- (1) JSD が学会誌を発行する母体として、安定的な存在となること
- (2) SD がからむ研究グループが依拠できる母体となること
- (3) その2点のメリットが組織を運営していく手間よりも大きいと認識されるようにすること
- (4) もちろん学会としての運営の手間もできるだけ合理化して、大勢の少しずつの協力を集めて維持できるようにすること

(1) 学会誌の発行

昨年度分の学会誌の発行が最後の段階で滞っておりますが、まずこれを発行し、年1回の安定的



な体制に移行したいと思います。もちろん会員の投稿がなければ学会誌は存在しえない投稿したくなる学会誌でなければなりません、そうなるプロセスで会員の皆様の協力もいます。

## (2) 研究会の体制

既存の体制をとりあえず引き継ぎますので、研究分科会を募集いたします。しかし、それとは別に、みんなで作るような研究会を立ち上げたいと思います。

個人的に私は、SDは、グループデザインメイキングの強力なツールであり、個人が作ったモデルは、いかに優れたモデルであっても、なかなか指示は得られないと思っています。研究会で一人一人が自分の問題についてモデルを作るのも良い経験かもしれません。しかし、社内の問題をモデル化した場合、その詳細を公表するわけにはなかなかいきません。共通で議論できるテーマを2つ3つ設定し、1つか2つをメインで分担しつつ、そのモデルの基本構造からみんなで議論していくような研究会を新たに組織し

たいと思っています。既にモデル構築に通じた何人かのメンバの方にはあまりクリエイティブではないかもしれませんが、しかし、多くの会員にとって、自分一人でモデルを作るより、2、3人で作る、そしてより多い人数の人に参加してもらいモデルについて議論してもらう経験は貴重なものだと思います。この研究会でのテーマは、環境問題、その他ある程度社会性のあるものを選び、できたモデルはJSDならびにSDSにみんなで持って行ければと思っています。このようなタイプの研究会は、月1回程度のペースでやるのではなかなか進みません。ある程度集中的に行い、それなりのモデルをある期間で作ればと思っ

ています。また、多くのメンバがその進行に意見をはさめるように、ウェブ上に研究会の状況や試行的なモデルをアップして、地理的なハンディがあっても参加できるような仕組みを考えるべきだと思っています。

社会人大学院生が多くなったからかもしれませんが、修士課程、博士課程でSDモデルが作られ、そのモデルがJSDで発表されることが多くなりました。もちろんJSDはそのための場です。しかし、もうほぼできあがったモデルを短時間で発表されても、そのモデルをじっくり理解してもらうことは難しいと思いますし、せっかくのモデル構築のプロセスで、モデルをよりよいものにもできません。したがって、モデル構築の途中で、ゆっくり時間をとってモデルを見てもらい、よりよいモデル構築のためのアドバイスをもらえることはモデル作成者にとっても有益ですし、指導する教員にとってもメリットがあると思います。論文をまとめる最後の段階ではモデルそのものになかなか手を入れにくいかもしれません。だからこそ早い段階で、発表し、意見をいってもらえるような場の設定は大切で、できあがっていないモデルの発表の場もJSDが提供したいと思っています。このようなことも考えており、研究担当の理事の方々とどのような場を作ればよいか話し合い、会員の皆様にアナウンスしていきたいと思っています。

少なくとも年1回は大会的な研究会が必要です。どのようなタイミングで行くかも含めて、これから詰めていきたいと思っています。

## (3) (4)

JSDの事務方の部分は、福田先生が組織する人的ネットワークに多く依存することになると思います。しかし、そのネットワークのメンバにとっても(1)(2)の活動に意味があるようにするとともに、研究会に参加しているからこの位のことはJSDのためにやっていると会員の皆さんに思ってもらえるように、是非JSD全体を運営していければと思います。

活動についてご注文があれば、是非およせください。

2010/07/30 内野 明